

▼ 初めに言があった ▼

校長 阿南 孝也

12月24日の夜半ミサでは、羊飼いたちが天使のお告げを受けて、生まれたばかりの救い主を拝みに行く場面(ルカによる福音書2章)が朗読されます。そして、翌25日の日中のミサでは、ヨハネによる福音書の冒頭部分が朗読されることになっています。

初めに言(ことば)があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中に輝いている。暗闇は光を理解しなかった。・・・言は肉となって、私たちの間に宿られた。

ヨハネによる福音書1章1～5、14節

この部分が毎年クリスマス当日に朗読されるのはなぜでしょうか? 「言」は新約聖書の原語であるギリシア語ではロゴス(logos)です。ロゴスは「宇宙の法則」「理性」「道理」「真理」「知恵」など、深く広い意味を持つ言葉です。天地創造の1日目、「神は言われた。『光あれ』こうして、光があった(創世記1章3節)」と記されている、力ある神の言です。ヨハネは、イエス・キリストは神の言であり、「初めに」とあるように、人類の歴史に登場する以前、天地創造の前から存在しておられた方であると宣言しています。クリスマスの出来事は、2千年前、神の言であるキリストが、人間となって、私たちの中に住み、直接語り掛け、生きる手本を示してくださったことにあります。

新しい年に当たり祈ります。神が創造された世界や、人々の営みの根底に流れ続けている、神の言に耳を傾けたいと思います。洛星で学ぶ生徒たちが、日々出会う人たち、また出来事の中に、神の働きを見出し、神の導きを得て歩んでいくことができますように。人の痛みに気づくことのできる、優しく強い心を育むことができますように。日々の学習を通して、学問の面白さ、楽しさに出会うことができますように。

よい一年となることを心から願っています。